

## 令和元年度第2回三木市総合計画策定審議会の概要

### (委員意見部分)

日 時：令和元年8月22日（木）

午前10時

～午前11時50分

会 場：三木市役所5階大会議室

#### (委員)

- ・総合計画の中で変更をしていただきたい部分があり、その部分についてこれまで参加した研修で感じたことや、教育委員会で話し合ってきたことを交えて述べたい。
- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」について、テーマ「未来へつなぐ人とくらしづくり」の中の柱として「誰もが学び続ける環境のまち」とあるが、これはビジョンとして適切ではないと思う。なぜならば、これから先の10年間で子どもたちを取り巻く社会は、予測不可能なほど急激に変化する。その中で重要なことは、学校教育だけでなく、社会の中にあふれている情報を取捨選択し活用することや主体的に学び自分で考え、問題を解決する力であると研修を通じて学んだ。そして、このような視点が示されているのは、資料2-1「三木市総合計画（案）」の21ページの「誰もが学び続ける環境のまち」の「めざす姿」である。特に、後半部分の「未来の希望である子どもたちが、ふるさとへの誇りと愛着心を抱き、グローバル社会においても自分で考え仲間と共に課題を解決していく力を育成します。」という部分には、特に力を入れていただきたい。そして、その考えを示すとともに、子どもたちが厳しい社会の中でも自ら道を切り拓いていってほしいという思いを込めて、「誰もが学び続ける環境のまち」を「豊かな学びで未来を拓くまち」に変更することを提案する。

#### (会長)

- ・出た意見のとおり「誰もが学び続ける環境のまち」を「豊かな学びで未来を拓くまち」へ変更したいと思う。

#### (各委員)

- ・異議なし。

(委員)

- ・参考資料「総合計画（素案）に係る住民説明会開催概要」の中で、「農業の分野においてもICTの活用を進め、この地域の生活にもICTを生かすことができるということを子どもたちに体験させてあげたいので、検討していただきたい。」という意見があり、これは地域の人たちとの関わりの中で学んでいけるものであると思う。そのため、資料2-1「三木市総合計画（案）」の38ページの「将来のあるべき姿」の中に、授業や家庭学習だけでなく、体験学習でもICTを効果的に活用するという考えを盛り込んでいただきたい。
- ・現代の社会は予測不可能なほど急激に変化する社会であり、参考資料「総合計画（素案）に係る住民説明会開催概要」の中でも「基本計画は5年で見直すこととしているが、近年の時代変化の速さを考えると毎年見直す方が良いのではないか。」という意見がある。基本計画を毎年見直すことができなくとも、時代の変化に対応できるような内容を盛り込んでいただきたいと思う。

(会長)

- ・県では、策定後に検証委員会を組織しているので、それについても事務局で検討していただきたい。

(山本総合政策部長)

- ・検証については、行わなければならないと考えている。どの程度の規模で行うかということも含めて検討する。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」の図表のタイトルについて、例えば1章の1つ目の図であれば「1-1（図のタイトル）」というように連番を振るなどを検討していただきたい。また、18ページの表について、タイトルが書かれていないので、こちらも修正していただきたい。
- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」の17ページについて、一般の市民にも「年少人口・生産年齢人口・老年人口」といった年齢区分が分かるように注記を入れた方が良い。
- ・先ほど委員から学校での体験学習に触れた意見があった。これについては、授業の方法論にも関わることであり、教育活動の1つに体験学習を追加する

のか、もしくは授業を行う上で手法の1つとして取り入れるのかということ  
で意味合いが変わってくるので、担当課と確認していただきたい。

- ・基本計画における柱の部分が、三木市教育振興基本計画、県の教員育成指標  
や教育研修計画と連動しているかを確認していただきたい。
- ・総合計画の「指標・目標値」の設定については、足りない項目があるように  
感じる。達成できる項目だけを示して、数値目標の達成ありきで考えるので  
はなく、より多元的、多角的に事業の評価ができるよう、随時「指標・目標  
値」の追加及び見直しを行っていただきたい。

(委員)

- ・総合計画の中でどれだけ詳しく記述するかという問題はあるが、資料2-1  
「三木市総合計画(案)」の「指標・目標値」については、別のページでまと  
めて示した方が良いと考える。その中で「指標・目標値」については、すぐ  
に成果が出るものとそうではないものがあるので、タイムスケジュールとと  
もに示すと良いのではないか。
- ・産業振興については、産業政策自体が県レベルで行うものであるため、市町  
村で取り組むことは難しいが、企業誘致とまではいかなくとも、三木市で起  
業するなどして、地域の雇用創出に貢献してくれる人を増やすような項目が  
あると良い。現時点では、会社を誘致することについて書かれているものの、  
三木市でビジネスをしてもらおうことについては書かれていないので、そうい  
った視点も必要である。
- ・参考資料「総合計画(素案)に係る住民説明会開催概要」について、住民説  
明会における20代、30代の参加者は非常に少ない。未来のことを語る上  
では、若い人からの意見聴取が必要である。計画を実施する際には、学生や  
働き盛りの方の意見を聴取し反映させていただきたい。

(委員)

- ・総合計画策定後は、各部署で計画を実施していくことになると思う。その中  
で、企業や団体と連携するならば、企業や団体と行政とをつなぐ部署が必要  
になると思う。
- ・総合計画の検証については、1年でどれだけ成果が出たのかを市民に分かり  
やすく示してほしい。
- ・若者が暮らしやすいまちをつくり、それを市外に向けて発信することで、若  
者の人口が増えている市があるので、三木市も積極的に市の良さを発信して

いくべきである。

- ・近年の社会は、1～2年という短い期間であっても大きく変わる。そのため、実施計画については、実効性のある具体的なものをつくっていただきたいと思う。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」60ページ「男女共同参画」の「指標・目標値」には、『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方に否定的と考える人の割合」というものがある。社会における女性の活躍についての考え方は、ここ5年間で大きく変わってきている。そういった中で、半分の人が「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」と考えている状況は、2029年の目標としてふさわしいものではない。また、そのような状況では、子どもに「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」ということが正しいと思わせてしまうなど、潜在意識に影響を与えかねない。そのため、年代別に目標を定めたり、全体の目標値を引き上げたりするなど、もう少し検討していただきたい。
- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」76ページ「公共交通」のKPIについて、「公共交通をこれまでより1回でも多く利用する」とあるが、その意図が分からない。仮に、市民全員が1回ずつ多く利用すれば、公共交通を維持できるだけの収益を得られるということであるのか、もしくは、公共交通に愛着を持ってもらうということであるのか疑問である。

(増田都市整備部長)

- ・仮に市民全員が1回多く利用すれば利用者数が増加し収益にもつながるため、公共交通網の維持につながる。ただし、具体的な利用回数よりも、市民が公共交通を積極的に利用しようという意識が重要であると考えている。その意図が伝わるよう表現についても検討する。

(山本総合政策部長)

- ・「1回『でも』多く利用する」ということから、必ずしも1回ではなく、少しでも多く利用していただきたいと思っている。

(委員)

- ・確かに、多ければ多いほど良いと思う。また、どれだけ公共交通を利用すれ

ば公共交通を維持できるかということは、市民も知りたいと思う。小野市が神戸電鉄粟生線活性化協議会から脱退するということが新聞で取り上げられていたので、市民の関心も高いと思う。

(増田都市整備部長)

- ・具体的な取組や目標については、担当課で策定する実施計画の中で示す。

(委員)

- ・やはり、K P I を同じページに記載すると、具体的な施策であるように見えてしまうので、見せ方についても検討していただきたい。
- ・資料 2-1 「三木市総合計画 (案)」 76 ページ「公共施設マネジメント」における K P I 「公共建築物の総延べ床面積の縮減」についても、目標が達成されることでどれだけのコストが削減されるかなどを別のページで解説した方が分かりやすい。
- ・資料 2-1 「三木市総合計画 (案)」 86 ページ「住環境」における K P I について、「空き家バンクの新規登録件数」ではなく「空き家の利用申請件数」の方が良いのではないか。
- ・資料 2-1 「三木市総合計画 (案)」 88 ページ「都市基盤」の K P I について、「水道管路の耐震化延長」や「マンホールの点検」などが挙げられているが、いずれも全体数が書かれていないため分かりにくい。
- ・資料 2-1 「三木市総合計画 (案)」 94 ページ「ふるさと納税」の K P I について、ふるさと納税の「返礼品の数」は、現在 445 品であり、目標は、2029 年時点で 800 品と書かれている。私は、三木市がふるさと納税にしっかりと取り組み、一定の成果を上げていることを知っている。しかし、返礼品の数が多くなり過ぎれば、管理も難しくコストもかさむのではないか。実際にふるさと納税を利用する人は、ウェブサイトで自分の欲しい返礼品を探し納税するというケースがほとんどであり、三木市の 800 品の中から選ぶというケースは多くない。そのため、返礼品の数は少なくとも良いので、他の市町村よりも目を引くものを返礼品とすることが必要である。

(委員)

- ・資料 2-1 「三木市総合計画 (案)」 27 ページ「基本計画の体系」について、体系表の中で S D G s に該当する「枠組み (施策)」を示せば見やすくなると思う。

- ・総合計画の冊子の配布について、自治会活動などを行っている方は、自分がどのように活動し協力すればいいのかなどを見ると思うので、そういった方にも配っていただきたいと思います。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」３７ページ「子育て総合支援①」について、三木市のアフタースクールは充実しているが、そこに入っていない子どももいるため、そういった子どもを地域で見守らなければならないと思う。そのことについて、何かしらの記述が必要である。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」４４ページ「青少年育成」について、これまでと変わらず見守り活動などをするだけではなく、子どもたちと日常的に関わりを持つという視点もあつた方が良いと思う。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」４７ページ「生涯学習」における「市民に進めていただくこと」について、「図書館ボランティアやNPO団体等としてのさらなる連携」とあるが言葉に違和感がある。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」６２ページ「市民協働」について、市民協議会の持続可能な運営についても記述してほしい。様々な手法が考えられるが、その時に合った方法で取り組んでいただきたい。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」６５ページ「生活困窮」における「市民に進めていただくこと」について、「地域行事などへの参加により、地域住民同士のきずなづくり」とあるが、本当に困窮している方は、地域行事にあまり参加できないと思う。また、住民同士が集まって情報交換をすることは難しい。そのため、市が主導して、住民同士が気軽に情報交換できる場を設けていただきたい。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」８５ページ「防犯・防災」の「市役所が進めること」の中で、「住民参加型の消防訓練の実施」とあるが、避難所開設については、特に記述されていない。近年の災害では、避難所が開設されるケースが増えており、市職員が避難所の開設をしているが、今後は市民が避難所の開設を行うことも考えられる。そのため、避難所について市民が学ぶ場も必要になると考えられる。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」１０１ページ「情報発信」の「市役所が進めること」で「Facebookによる三木の魅力発信に対する発信」とあるが、Facebookだけに限らずその他のSNSでも発信することも考えて、「SNSによる三木の魅力発信に対する発信」という表記にした方が良いと思う。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」69ページ「地域コミュニティ」の「市民に進めていただくこと」で「地域住民同士のつながりを大切に、地域活動へ積極的に参画」とあり、自由が丘では、自治会が主導して夏祭りなどのイベントを開催している。夏祭りでは、利益よりも地域の人たちが楽しめることを優先し開催しているおかげで、地域住民間の交流ができていると思う。また、このような形で開催できているのは、これまでの区長協議会連合会の方々が、地域や住民のことを優先に考えてこられたためであると思う。
- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」71ページ「環境」の「市民が進めていただくこと」で「LED防犯灯の維持管理に協力」とあり、これについては、防犯上必要であるため、地区の中で114カ所の街灯を、2年かけてLEDに更新した。これについては、市からの援助もあり感謝している。
- ・同箇所「ごみ出し困難者への情報提供とごみ出しに関する近隣同士の共助」とあるが、ごみ出しが困難であっても自力でごみ出しをする高齢者の方があると聞く。私の地区には、ごみ出しが困難であるが要介護状態区分等の条件を満たしておらず、ふれあい収集の対象になっていない方がいた。その方に、「私と一緒にごみ出しをしましょうか。」とうかがっても、「申し訳ないから結構です。」と遠慮し、現在その方は、別の地区に住んでいる子どもの家で暮らしている。そういったことがあるため、自治会内では、ごみ出しに困っていらっしゃる方がいたら、可能な限り手伝ってさしあげるようお願いしている。お年寄りが暮らしやすいまちは、子どもも暮らしやすいまちであると思う。ささいなことであっても、支え合いが大切であると思っている。
- ・基本計画における「市民に進めていただくこと」は、自治会で考え決めていただきたいと思う。高齢化が進み、自治会だけでできることが少なくなってくるかもしれないが、自治会には、細かい心遣いを持って頑張っていただきたいと思う。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」の序論第2章「時代の認識」に、人口減少に伴う財政面の見通しも記述してほしいと思う。
- ・ごみ処理場のことについて、三木市単独で行うのか広域で連携するのかなどについて、方向性を記述してほしい。
- ・公共交通機関について、神戸電鉄の今後やふれあいバスの利便性などが疑問であるため、交通網の見直しやバス交通を維持するための運賃値上げなども

含めて考えていただきたい。

(委員)

- ・この総合計画にSDGsの視点を入れたことで、三木市が世界とつながったと思えた。
- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」38ページ「学校教育<sup>ア</sup>」で、ESD (Educational for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育)の観点を加えた方が良いと思う。三木の子どもたちも、持続可能な社会の実現のために活躍していける教育が受けられるようになればいいと思う。これについては、三木北高校が兵庫県で一番初めにユネスコスクールの認定を受けている。また、平成30年10月時点では、全国で1,116校が認定を受けている。三木市でも、幼・小・中・高でESD教育を推進していただきたいと思う。
- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」78ページ「共存社会」について、「外国人との共存に関する指針」という言葉を用いているが、以降のページでは、全て「共生」と表現しているので統一する必要がある。

(会長)

- ・国の指針として「多文化共生」というものを示しているので、「共生」に統一したい。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」108ページ「歴史・文化遺産」について、「枠組み(施策)」を「歴史・自然・文化遺産」としてはどうか。三木市に自然遺産は無いが、植物や動物が多く自然が豊かであるため暮らすにはちょうど良い田舎と言われている。それは、三木市が歴史や文化に加えて、自然も大切にしてきたためである。したがって、109ページの「市民に進めていただくこと」についても、「地域に残る歴史、自然、文化、伝統をその地域に暮らす人々が発掘するとともに市政へ情報を提供」としていただきたい。そうすれば、市史編さん事業の自然地理部会で活動している方の励みになる。

(委員)

- ・先ほど別の委員から意見があったが、若者が市の会議や説明会などに参加しない理由を考えなければならない。私が思うに、他の自治体でも言えること



であるが、会議や市自体に魅力が無いためではないかと思う。どうすれば三木市の魅力を高められるかを考えながら施策を実施していただきたい。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」42ページ「学校教育⑦」の「指標・目標値」における「不登校出現率」について、現在の三木市の中学生は、約2,000人であり不登校生徒が約60人である。そして、2024年には、不登校生徒を50人に減らし、2029年には46人に減らすということであるが、目標値が低いと思う。そもそも、不登校生徒の実数が少ないように思う。また、不登校出現率は、小学校より中学校の方が2%以上高いので、この理由を考えつつ施策を行っていただきたい。
- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」46ページ「生涯学習」の「指標・目標値」である「市民一人当たり貸し出し冊数」について、どのようにして貸し出し冊数を増やすのかが見えてこず、目標についても低いように感じる。また、図書館を利用する方は、本を借りるだけでなく図書館の中で本を読む人や勉強する人もいるので、「指標・目標値」の中に、「図書館の利用者数」も入れなければならないと思う。
- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」54ページ「安全・安心」の「指標・目標値」である「人身事故件数」について、2024年から2029年の5年間で発生件数を5%減らすことを目標としているが、この5年間で人口も5%減少すると見込まれており、取組の効果ではなく人口減少によるものであると思われかねないので、目標値を見直した方が良いと思う。

(会長)

- ・「指標・目標値」を基本計画と同じページに記載するとそちらに注目してしまうので、全ての「指標・目標値」をまとめて別のページに記載した方が良いかもしれない。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画(案)」74ページ「利活用(循環型社会)」の「指標・目標値」である「一人あたりのごみ排出量県平均との差」について、17年間かけて1日当たりのごみ排出量を132グラム減らすのは適正な目標であるのか、また、県平均と同等で良いのかということを含めて検討していただきたい。同箇所の「清掃センターの施設見学の人数」について、20

17年から2024年で23人しか増えていないにもかかわらず、2029年には2,000人と爆発的に増えており、これについての理由を明らかにしていただきたい。

- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」76ページ「公共交通」について、公共交通網を整備する上で、神戸市営地下鉄の延伸は望めないということを考えれば、市がUberなどに助成金を出し積極的に支援することで暮らしに必要な環境を整えられると思う。
- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」82ページ「公共施設マネジメント」の「指標・目標値」で「公共建築物の総延べ床面積の縮減」が挙げられているが、この指標が「公共施設マネジメント」に対してどのような意味を持つかが分からない。
- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」84ページ「防犯・防災」の「指標・目標値」について、『消防・救急救助体制の整備』に対する重要度」とあるが、正しくは、『消防・救急救助体制の整備』に対する満足度』ではないか。
- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」120ページ「人材育成」の「指標・目標値」に『健全な行政経営の推進』に対する満足度」とあるが、これが人材育成の指標となり得るのが疑問であるため検討していただきたい。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」61ページ「男女共同参画」における「企業・団体等に進めていただくこと」に書かれている「女性が自らの意思によって経営に参画する機会の確保」については、どのように実践すればいいのかが分からない。そのため、実践するときのことを考え目標や実施内容を検討していただきたい。
- ・総合計画の内容については、市民や企業が実際に取り組めるように周知していただきたい。

(委員)

- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」64ページ上部について、他のページでは「柱」となっているが、このページだけ「テーマ」になっている。
- ・資料2-1「三木市総合計画（案）」87ページ「住環境」について、空き家の問題が「(柱) 防災のまち」に出てくるのは違和感がある。空き家が増えることで防災上の問題が出てくるためであろうかと思うが、空き家をこれ以上増やさず持続可能なまちをつくるということで「(柱) 持続可能なまちづくり」

に入れた方が良くと思う。

(委員)

- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」７６ページ「公共交通」について、運転免許返納後の生活では、病院や買い物に行くことが心配であるためしっかりと考えていただきたい。三木市のマイカー利用が７割となっているが、１０年間の総合計画の期間中に公共交通の利用者数がマイカー利用者数を超えるのではないかと思う。そう考える理由としては、１７ページのグラフからも分かるように、計画の期間内で高齢者の割合が増えているためである。７７ページの「市役所が進めること」については、読んでいて希望が持てる内容であると感じた。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」１１３ページ「利便性」の「市役所が進めること」において、デマンド型交通などの導入についても記述されており、希望が持てる内容であると思った。私自身ももうすぐ運転免許を返納しなければならぬと考えると不安になるので、公共交通網の動向については非常に注目しており、観光との結びつきも考えて検討していただきたい。

(委員)

- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」８５ページ「防犯・防災」の「市役所が進めること」における「災害時の初動体制の整備及び確立」について、各区長には、集会所の耐震化やそれに係る助成制度の説明が行われるが、もう少し詳しく説明していただきたいと思う。

(委員)

- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」の基本計画における「指標・目標値」については、別とじにするとしてもどこまで細かいことを目標として挙げるかという問題があると感じた。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」１９ページの「地域連携型都市構造図」を見て、広い三木市の中でも連携が必要であり、北播磨や兵庫県、近畿地方など、様々な枠組みで連携し関係人口の創出に取り組んでいただければと思う。

(副会長)

- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」１８ページのタイトルについて、「土地

利用計画」としているが、このような表記では拘束力を持つ計画であるという誤解を与えかねない。内容としては、あくまでも「構想」であり、内容に見合ったタイトルに変更していただきたい。

- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」の基本計画における「将来のあるべき姿」について、「将来」という言葉があいまいなので「２０２９年のあるべき姿」など、読む人が分かりやすいように示した方が良いと思う。また、「～を進めています。」という表現については、現状であるように感じるので「～になっています。」といった表現の方が適切である。そういった言葉の整理が必要であると思う。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」について、三木の強みが出ていないと感じる。そのため、基本計画の各ページに「三木の強み」という項目があっても良いのではないかと思う。そして、２０２９年には、その強みをさらに伸ばすという考え方はどうか。三木の強みを具体的に示さなければ、市民は三木の何を誇れば良いのかが分からないので、分かりやすく伝えていただきたい。

（委員）

- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」８ページの「３ 土地利用・人口」に年齢別人口の図表が必要であると思う。
- ・資料２－１「三木市総合計画（案）」１８ページ、１９ページについては三木市の現状であるように思えるので、７ページから始まる「三木市の特性」につなげた方が分かりやすいのではないかと思う。